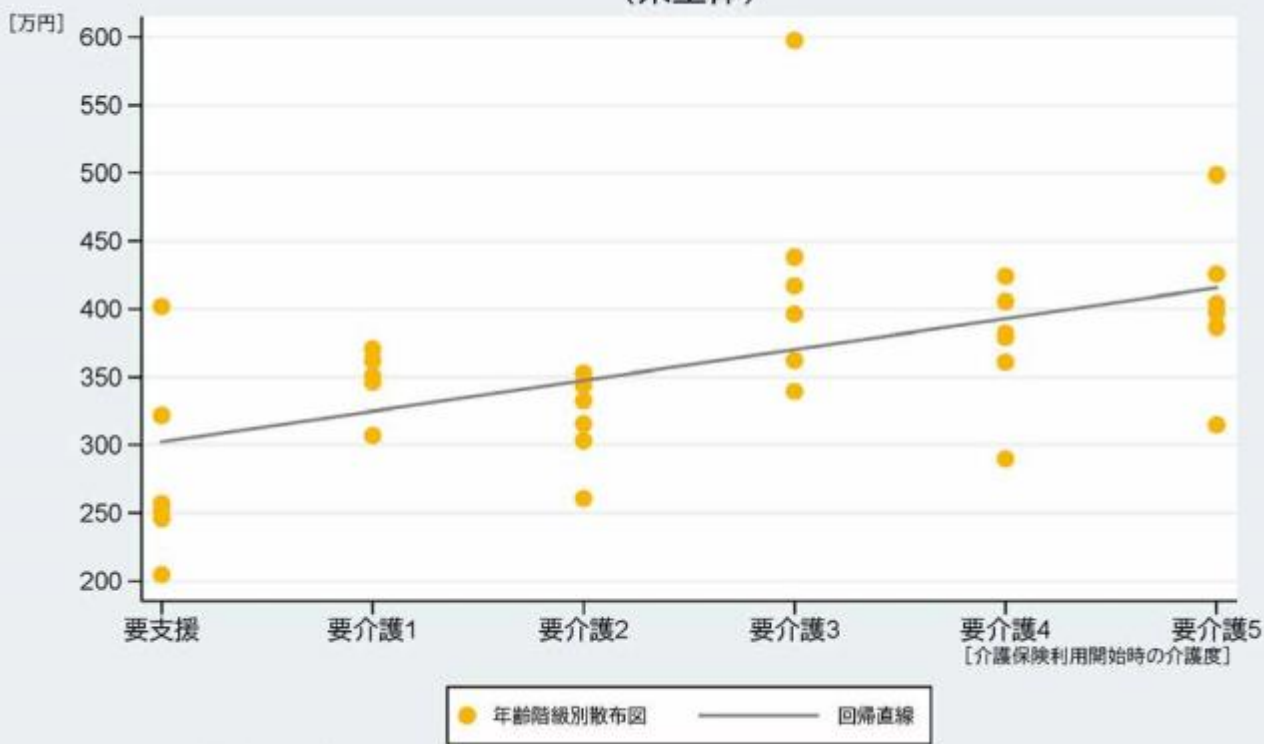
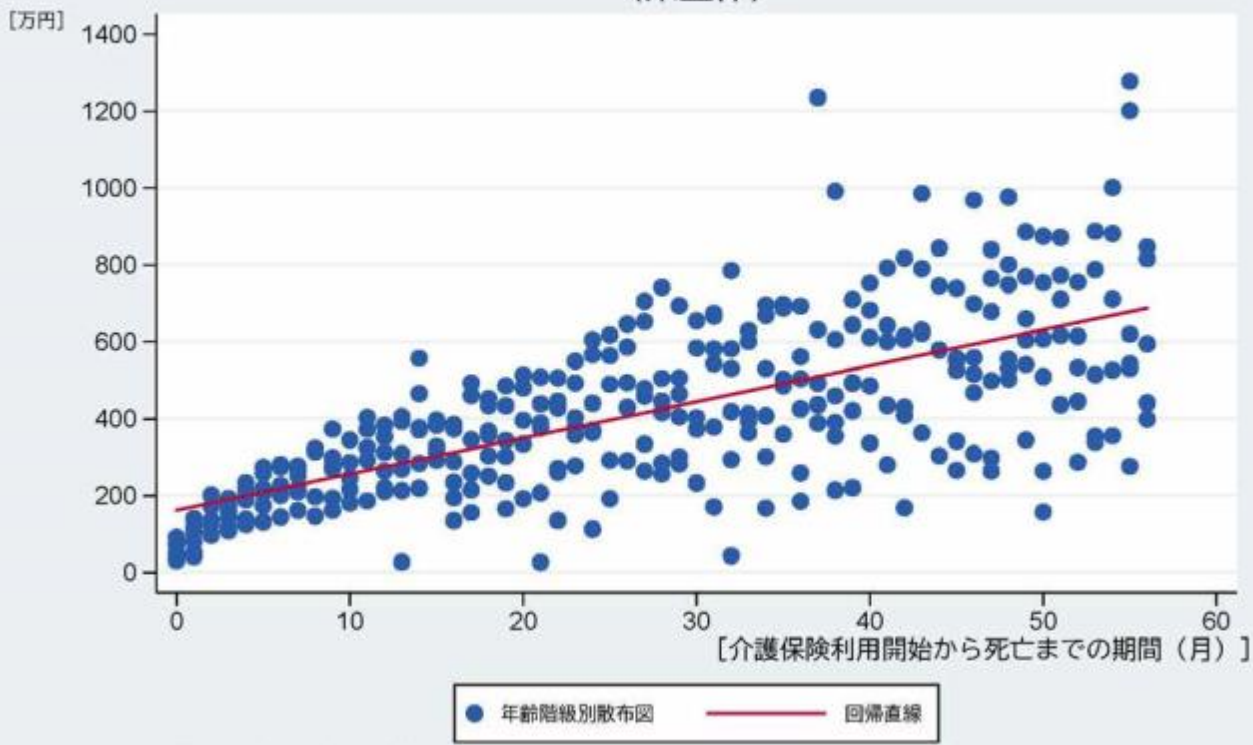


11-7. 新規介護保険利用開始時の介護度と1人当たり介護費 (県全体)



注1) 年齢階級で集約 注2) 相関係数0.53

11-7. 新規介護保険利用開始から死亡までの期間と1人当たり医療費 (県全体)



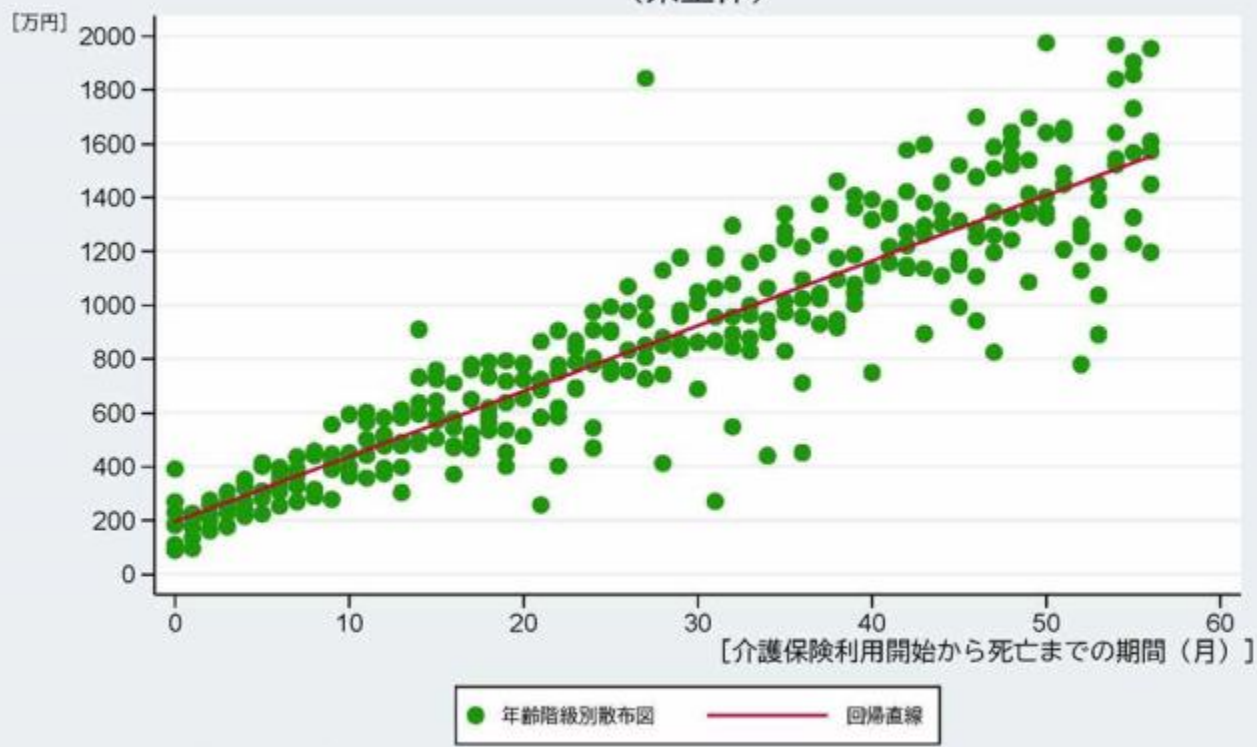
注1) 年齢階級で集約 注2) 相関係数0.69

11-7. 新規介護保険利用開始時の介護度と1人当たり医療費 (県全体)



注1) 年齢階級で集約 注2) 相関係数 -0.24

11-7. 新規介護保険利用開始から死亡までの期間と1人当たり医療介護費 (県全体)



注1) 年齢階級で集約 注2) 相関係数0.91

11-7. 新規介護保険利用開始時の介護度と1人当たり医療介護費 (県全体)



注1) 年齢階級で集約 注2) 相関係数0.12

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)
- (6)
- (7)
- (8)
- (9)
- (10)
- (11)
- (12)
- (13)
- (14)
- (15)

(12) 介護保険利用者の過去の病歴の調査

1. 対象データ:
KDB データの医療レセプト、介護レセプト、介護認定調査票等
2. 対象期間: 平成 27 年 4 月から令和 2 年 3 月まで(5年間)
3. 対象者:
令和元年 4 月から令和 2 年 3 月までの期間、新たに要介護又は要支援と認定された者
4. 評価指標:
1) あらかじめ指定した傷病名を有する利用者数、介護保険利用の利用回数
2) 性別・年齢階級別の医療費
5. 分析方法:
1) 複数の傷病名を有する場合はそれぞれの傷病名の利用者数に集計する。
2) 傷病名と要介護度の関係の関連性については統計解析手法を用いて性別・年齢・重症度等を調整した層別解析を行い、各市町村における疾病別の特性を定量的に分析する。

分析時の変数 (主要なもの)	使用ファイル	作成方法
対象者	医療レセプト管理、医療傷病名、介護給付基本実績、KDB 被保険者台帳	KDB 被保険者台帳の介護認定開始から 2019 年度に介護認定開始とされる 170,019 人を抽出し、医療レセプトと介護レセプトが 5 年間で 1 回ずつ以上発生している 109,944 人を選択
病歴	医療傷病名	2015～2018 年度に付与された ICD10
疾病名	医療傷病名	2019 年度に付与された ICD10

6. 分析結果: 分析結果は次の図の通りです。

7. 考察:

図 12-1 は 2019 年度新規介護認定者かつ過去 5 年間で医療及び介護の両方を利用した 2019 年度末時点の被保険者数を示しています。すべての年齢階級において女性の方が男性と比べて多く、80 歳台が最も多い結果がみられました。

図 12-2 は介護保険利用者数を介護保険の利用月別推移を示しています。毎月利用者は増加傾向にあり 2019 年度において毎月延べ 8 万人以上が介護保険を利用した結果となりました。

図 12-5 は疾病名別に対象者数を比較した結果を示しています。最も多い疾病名は消化器系の疾患、次いで高血圧性疾患となっています。この傾向は分析(5)の傾向と同様ですが、介護保険利用の観点から脳梗塞やアルツハイマー等の疾患も一定数存在することが明らかになりました。

図 12-6 はこれらの対象者にかかる医療費の総額を示しています。対象者数の増加に伴い医療費は年々増加傾向にあることがわかりました。今後、医療費増の要因について更なる検討が必要です。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

(6)

(7)

(8)

(9)

(10)

(11)

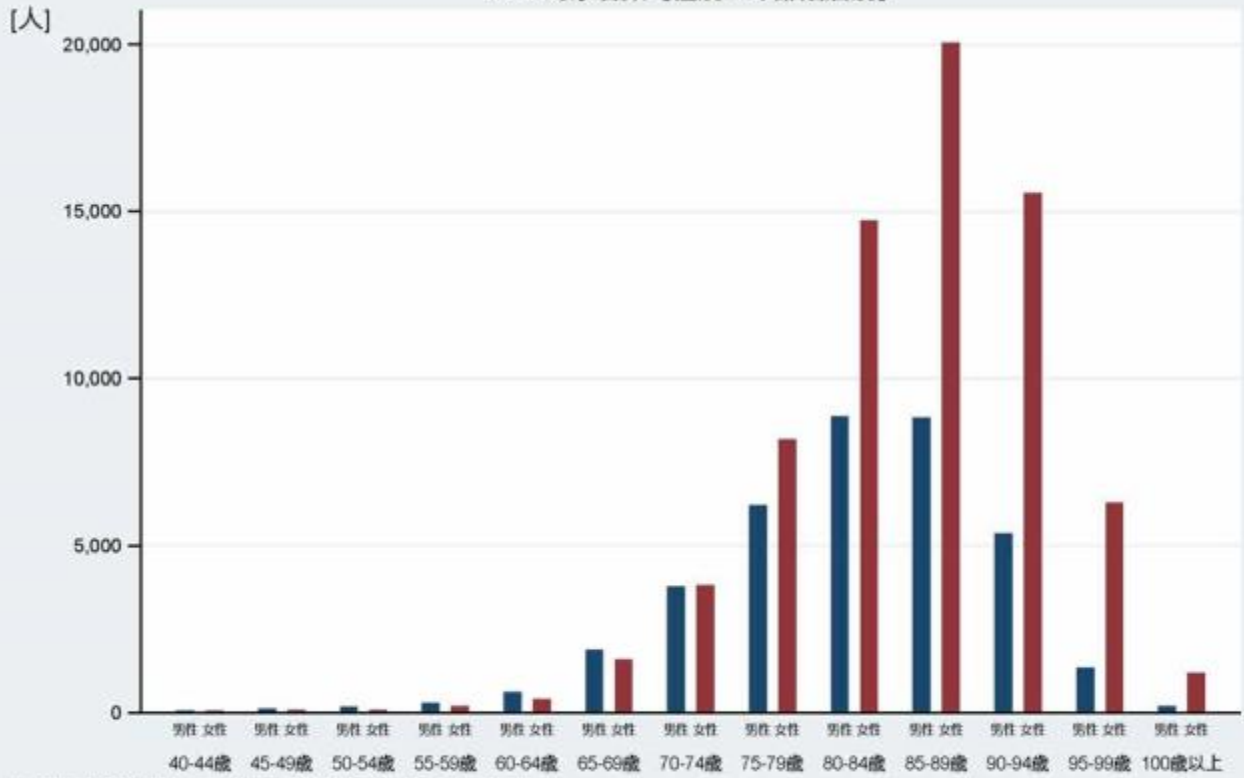
(12)

(13)

(14)

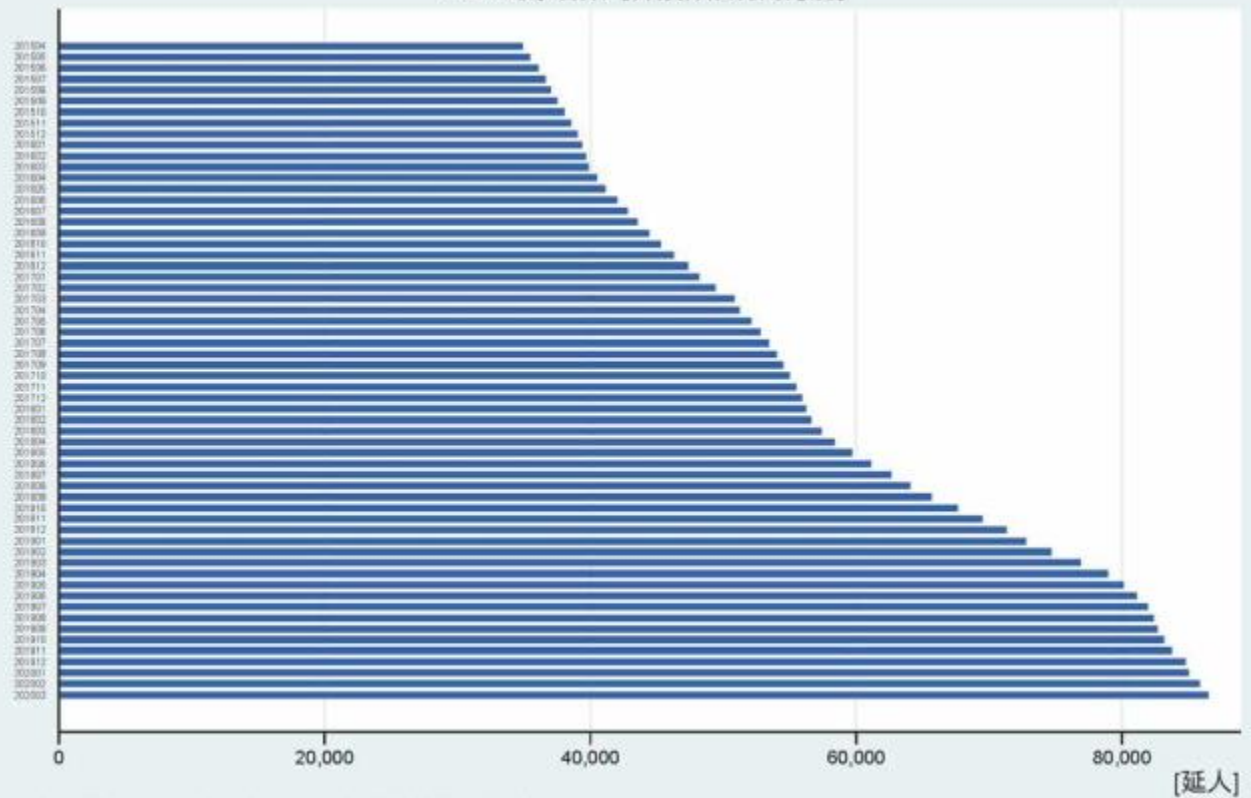
(15)

12-1. 対象者数【性別・年齢階層別】



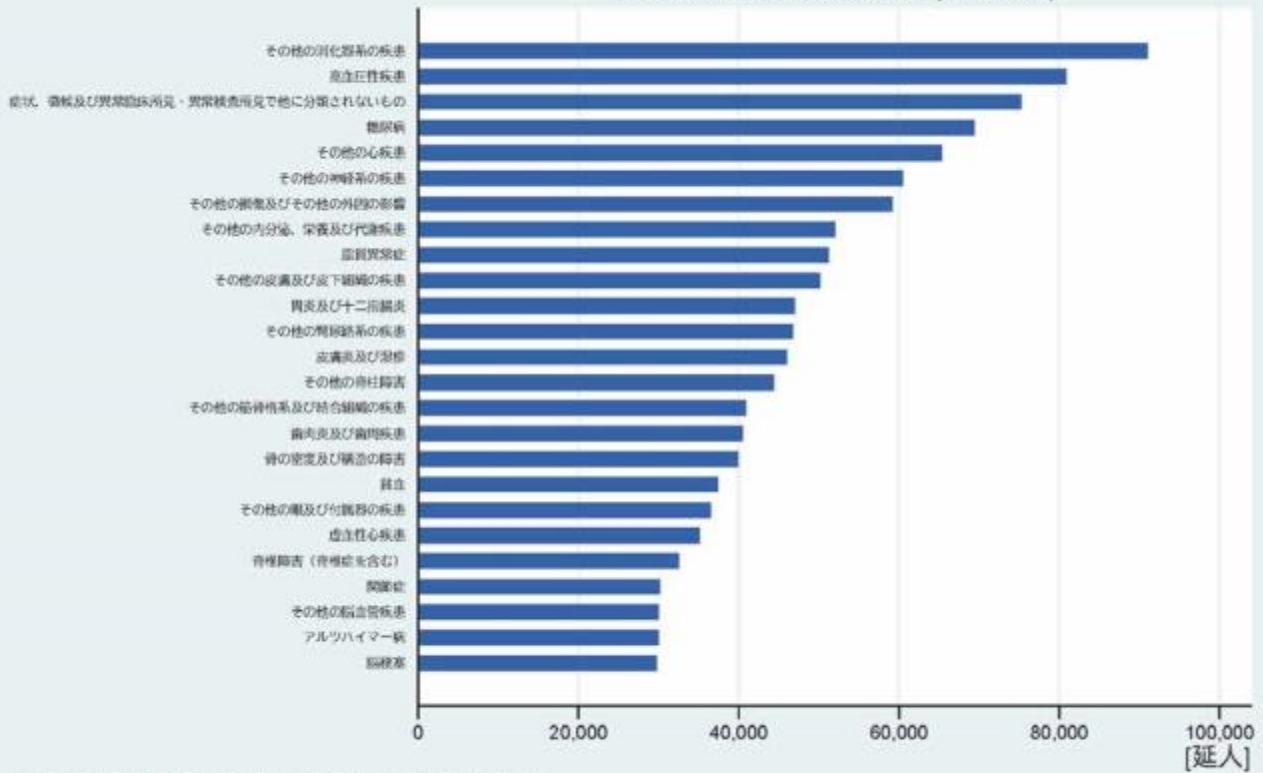
1) 2019年度新規介護認定者かつ過去5年間で医療及び介護の両レセプト発生者：109944人
 2) 2019年度末時点

12-2. 対象者数【介護保険利用月別】



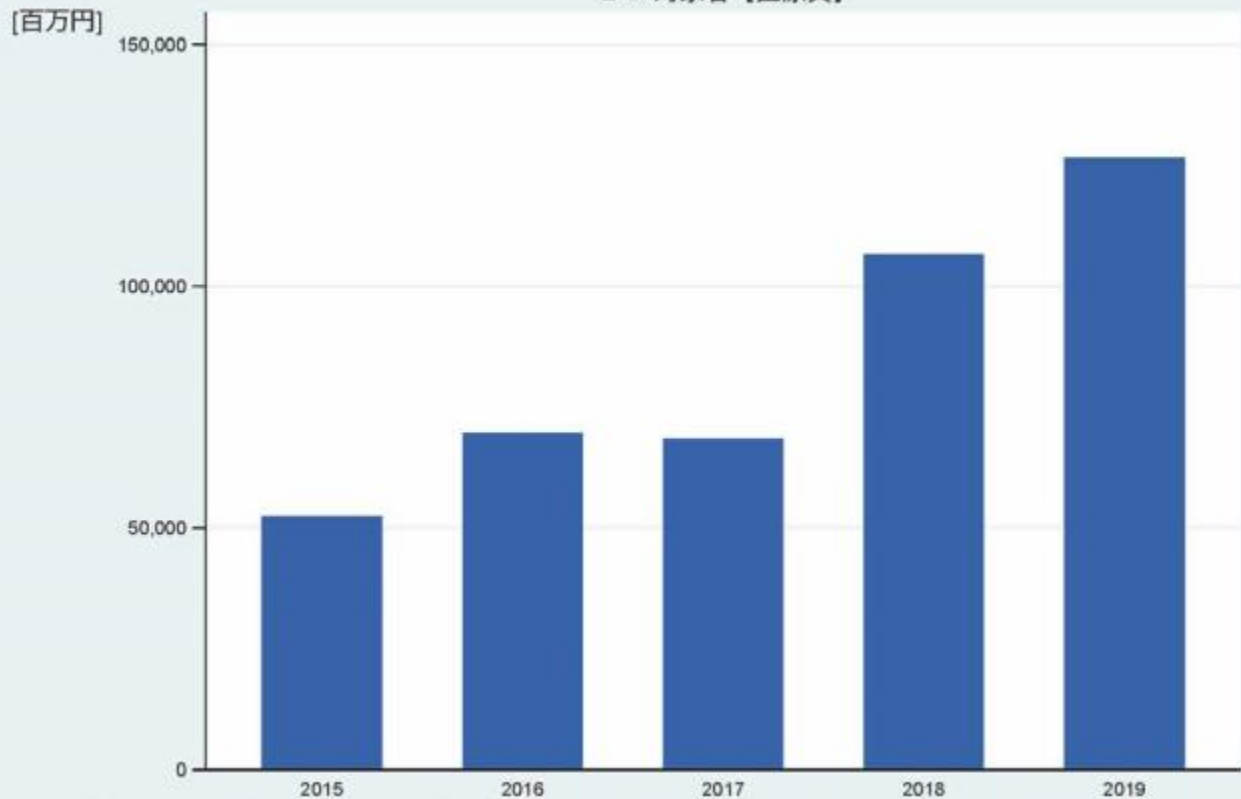
1) 2019年度新規介護認定者かつ過去5年間で医療及び介護の両レセプト発生者：109944人

12-5. 対象者数【疾病名別】(上位25位)



1) 2019年度新規介護認定者かつ過去5年間で医療及び介護の実レセプト発生者：109944人
 2) 疾病名：2019年度の患病名（複数の患病名がある場合にはそれぞれを1例としてカウント）

12-6. 対象者【医療費】



1) 2019年度新規介護認定者かつ過去5年間で医療及び介護の実レセプト発生者：109944人

(13) 医療機関での検査実施状況調査

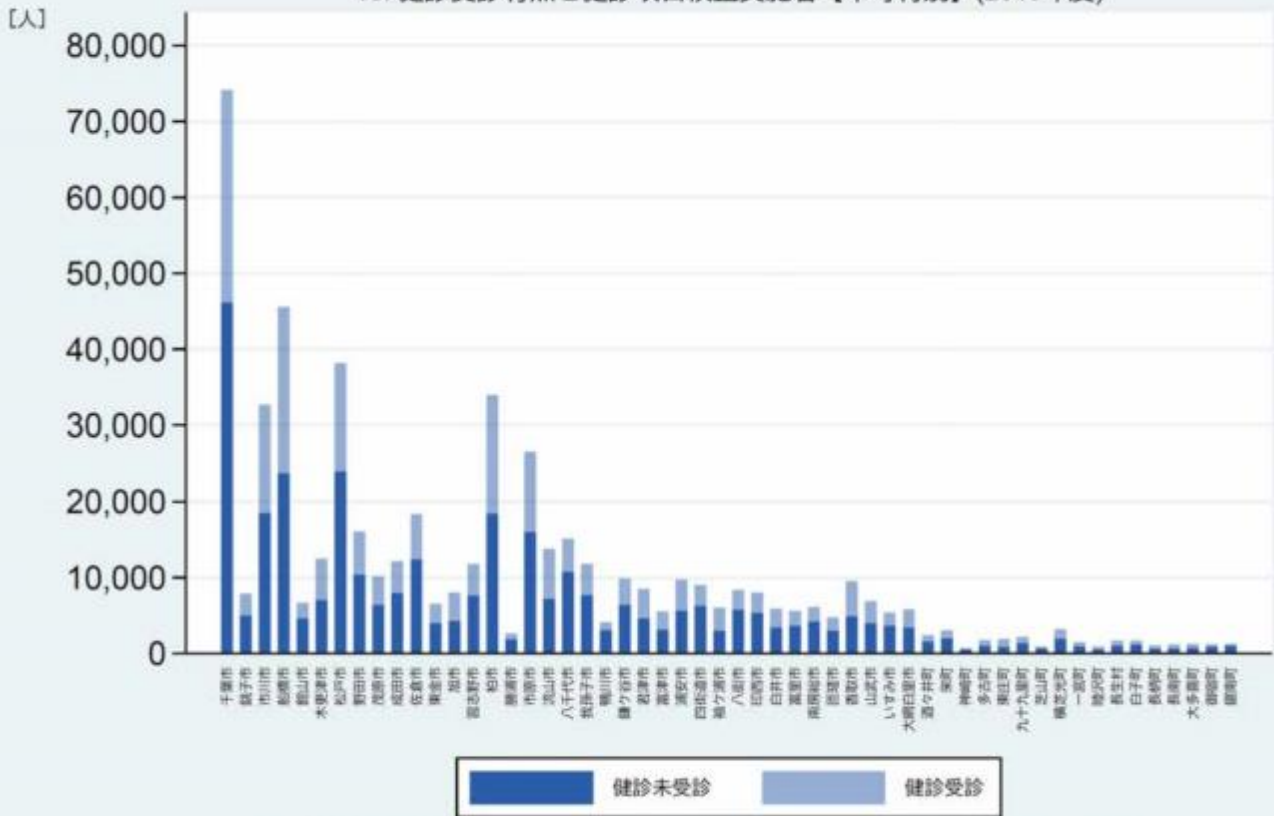
1. 対象データ：健康スコアリングレポート(令和元年度分データ)およびレセプトデータ
2. 対象期間：令和元年4月から令和2年3月
3. 対象者：対象期間に特定健診を受診した記録を有する者
4. 評価指標：疾病名称別・検査名別・性別・年齢階級別の対象者数、一人当たり年間医療費
5. 分析方法：評価指標は市町村別・性別・年齢階層別に集計する。
6. 分析結果：分析結果は次の図の通りです。

7. 考察：

図13-1は特定健診を受診した者と未受診者のそれぞれに対して、医療機関で健診項目に該当する検査を実施した者の数を市町村別で比較した結果を示しています。人口構成による違いはあるものの、受診者・未受診者のそれぞれにおいて医療機関で健診項目に該当する検査が実施されていたことがわかりました。特定健診の未受診者については、医療機関で健診項目を受診している割合が半数を超えており、医療機関で治療を受けている未受診者の存在が示唆されました。

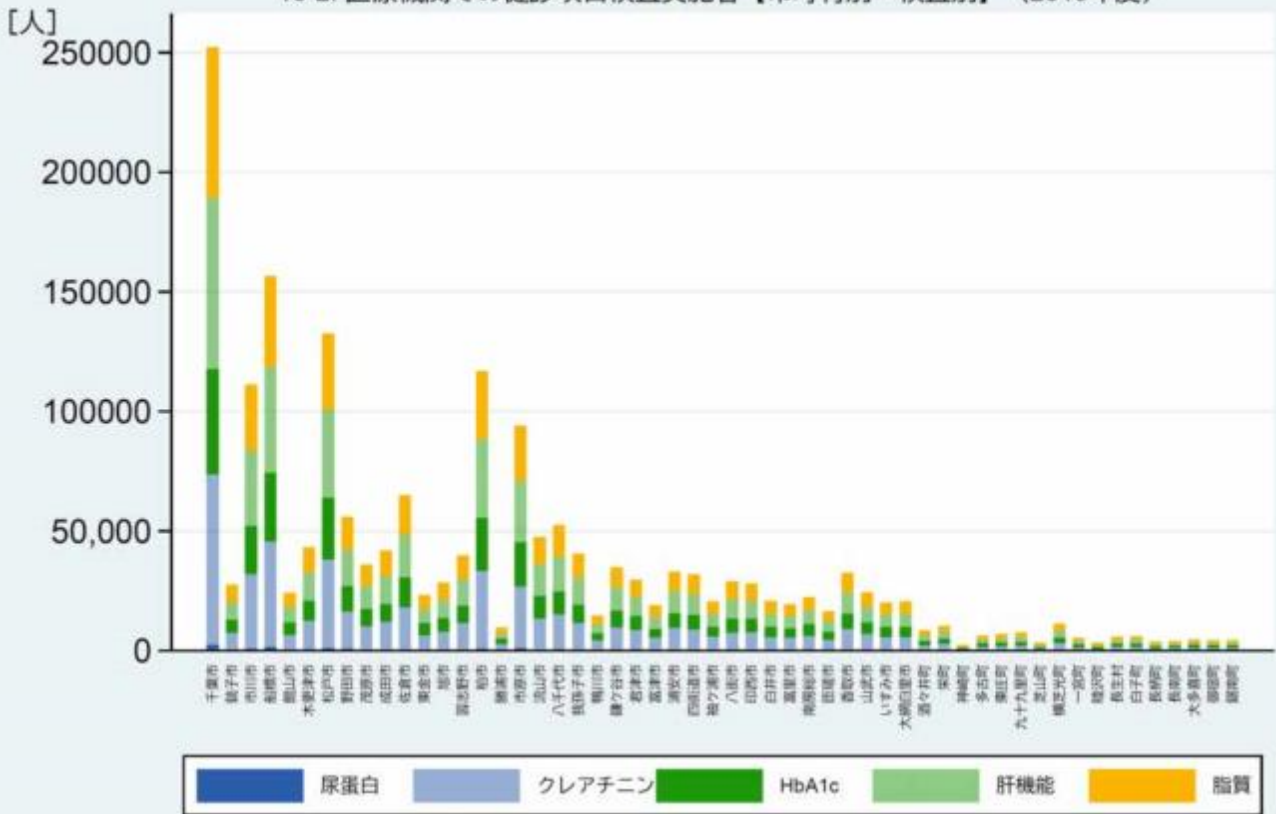
図13-2は医療機関で検査を行った検査項目の内訳を示しています。その多くが血液検査によるHbA1cや肝機能、脂質検査でしたが、尿蛋白検査はほとんど実施されていない結果が明らかになりました。糖尿病性腎症の予防において尿蛋白検査の重要性が示唆されているにもかかわらず、医療機関で実施されていない実態が明らかとなり、市町村の課題が示唆されました。

13. 健診受診有無と健診項目検査実施者【市町村別】(2019年度)



一年間に一度でも該当の検査を受けた者の人数 ※年間に何度検査しても1人とカウントする。検査項目は尿蛋白、クレアチニン、HbA1c、肝機能、脂質の5つ。

13-2. 医療機関での健診項目検査実施者【市町村別・検査別】(2019年度)



40-74歳。延べ人数(複数の検査項目実施ではそれぞれをカウントする)